

1. 民事訴訟法

【学習のポイント】

①実際の民事訴訟をイメージする。

- ・ 紛争の発生
- ・ 訴えの提起
- ・ 口頭弁論／争点整理手続
- ・ 証拠調べ
- ・ 判決
- ・ 控訴／上告
- ・ 後の訴えの提起との関係

②基本的な用語を理解する、定義する。

(例)

- ・ 請求の趣旨
- ・ 請求の原因
- ・ 訴訟物
- ・ 請求の認容／棄却、訴えの却下
- ・ 判決（／決定／命令）

③頻出の論点を軸に複数回学習する。

- ・ 処分権主義
- ・ 弁論主義
- ・ 既判力

【勉強方法】

①以下の書籍でイメージを持つ。

- ・ 民事訴訟第一審手続の解説 第4版：事件記録に基づいて
- ・ 新問題研究 要件事実

- ・事例で考える民事事実認定

(※「民事裁判教官室コーナー」!!!)

②定評のある基本書・体系書で用語を固める。

- ・指定の基本書（中野、伊藤、新堂）
- ・民事訴訟法講義案!!!

(その他おすすめ書籍)

- ・論点精解 民事訴訟法〔改訂増補版〕
- ・読解民事訴訟法

③具体的な事例を見て、問題点を見つけられるようになる。

- ・期末試験過去問
- ・Basic Study 民事訴訟法→ロジカル演習民事訴訟法／Law Practice 民事訴訟法
- ・事例で考える民事訴訟法／ロースクール民事訴訟法

(ここまですれば司法試験も怖くない。)

- ・予備試験・司法試験過去問

2. 刑事訴訟法

【学習のポイント】

①実際の捜査、証拠収集のための活動、刑事訴訟をイメージする。

(・犯罪の発生)

- ・捜査機関が犯罪を認知
- ・現場の捜索、巡回、不審人物への職務質問
- ・客観的な証拠の取得
- ・（主観的な）供述の取得
- ・警察が検察に記録を送付
- ・検察官が起訴／不起訴を判断
- ・起訴状の提出

- ・冒頭手続→証拠調べ→人証取調べ→被告人質問
- ・判決

②基本的な用語を理解する、定義する。

民事訴訟と異なり、法令外の概念が登場することは少ない。∴罪刑法定主義。

(例)

- ・逮捕
- ・搜索、差押え
- ・令状主義
- ・証拠能力
- ・要証事実
- ・公訴事実

③捜査と証拠の範囲を中心に、判例学習を徹底する。

- ・捜査の範囲では、どのような捜査活動が違法になったか。
(→捜査が違法であるとされると…?)
- ・証拠の範囲では、何よりも伝聞法則！
どのような証拠について署名なしに証拠能力が認められたか。

【勉強方法】

①最終目標は、Legal Quest 刑事訴訟法を読めるようになること！

(これが理解できれば司法試験的には十分。)

そこまでのステップとして…

- ・有斐閣ストウディア／日評ベーシック・シリーズ
- ・プロシーディングス刑事裁判
- (※「刑事裁判教官室コーナー」!!!)

(その他おすすめ書籍)

- ・川出敏裕『判例講座 刑事訴訟法』

- ・工藤昇『事例でわかる伝聞法則』／後藤昭『伝聞法則に強くなる』

②とにかく判例重視！

- ・判例百選／刑事訴訟法判例集

③具体的な事例を見て、問題点を見つけられるようになる。

- ・期末試験過去問
- ・予備試験・司法試験過去問

(繰り返し出題されている論点が多い。)

3. 行政法

【学習のポイント】

①具体例を意識して講学上の概念を理解する。

特に行政法総論は、講学上の概念の学習に時間を割きがち…。

⇒過去問や基本行政法で具体的な事例をイメージする。

②定期的に出プットする。

短答でも論文でもよい。

③基本となる法律と、判例や授業で出てきたメジャーな個別法を読んでみる。

- ・行政法基礎では、行政手続法。
- ・『重要判例とともに読み解く 個別行政法』も参照。

【勉強方法】

①行政法基礎では、授業をペースメーカーにして基本書を読む。

予習：有斐閣ストゥディア

復習：基本行政法／櫻井・橋本『行政法』

(苦手な人は、該当範囲の予備試験短答問題を解いてみる。)

②論文の書き方は、再現答案のほか、

- ・実践演習行政法、

- ・ 行政法解釈の技法、
- ・ 新版行政法解釈の基礎―「仕組み」から解く、を参考に。

③行政法基礎は、行政法総論を扱うため、それぞれの問題のうち、手続的・実体的な違法性が論点となっている部分をピックアップする。（⇔行政救済法の範囲になる処分性や原告適格の問題は飛ばしてよい。）